

三島市新規最終処分場 候補地選定に係る説明会

目次

- ▶ 最終処分場の現状
- ▶ 最終処分場とは
- ▶ 最終処分場の構造
- ▶ 候補地選定の基本方針
- ▶ 比較方法
- ▶ 候補地の地理的側面
- ▶ 候補地の経済的側面
- ▶ 比較結果
- ▶ 今後のスケジュールについて

最終処分場の現状

本市の最終処分場は、清掃センターの敷地内に第1埋立地、第2埋立地、第3埋立地の3か所がある。

第1埋立地及び第2埋立地は既に埋立が終了し、現在は、第3埋立地に焼却灰と不燃残渣を埋め立てている。

また、**第3埋立地の残容量がひっ迫していることから、延命化のために2010年から焼却灰と不燃残渣の一部を外部搬出している。**

最終処分場とは

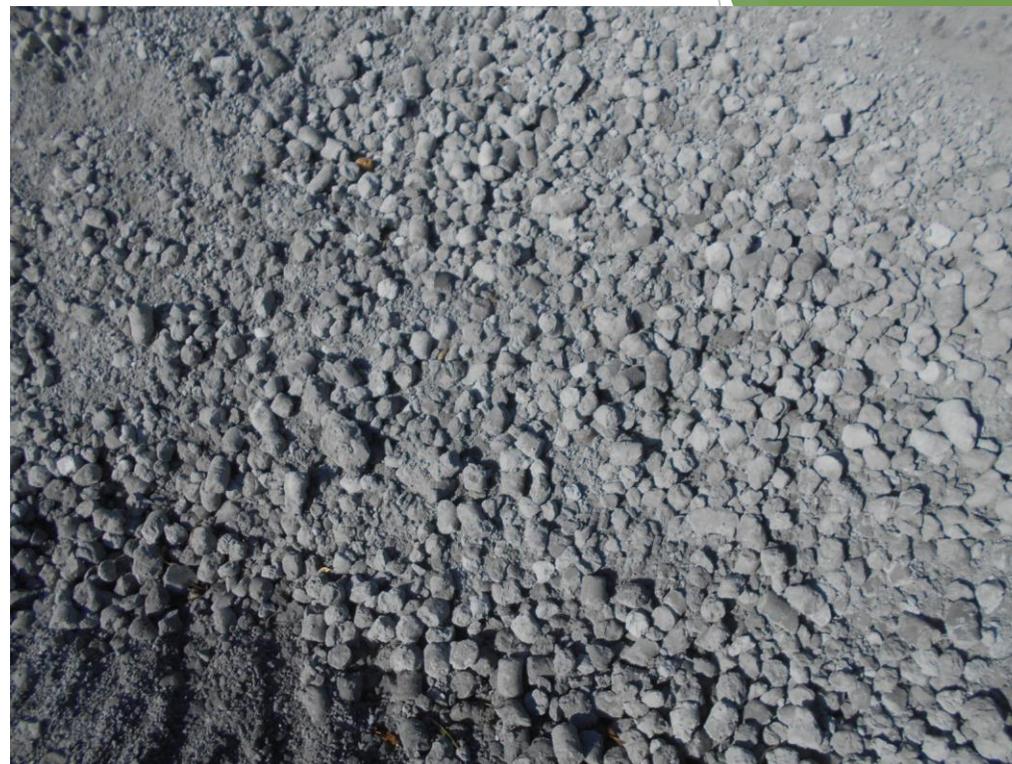
- 最終処分場とは、**生活環境の保全上支障の生じない方法で、廃棄物を適切に貯留**し、かつ生物的、物理的、化学的に安定な状態にすることができる埋立地及び関連附帯設備を併せた総体の施設をいう。
- ごみを燃やすと灰が出ます。また、粗大ごみからは、鉄、アルミを取り出した後の不燃物のガラスや茶わんなどを毎日埋め立てているのが、最終処分場です。



写真 三島市清掃センター
第3埋立地（2019年2月1日撮影）

最終処分場とは

- ▶ **最終処分場に埋立しているものは安全です。**
環境保全を第一に考え、
焼却灰とセメントを混ぜて固めることで
焼却灰とダイオキシンが
飛散しないよう処理をしている。



▶ 清掃センター周辺

大気中のダイオキシン類濃度

清掃センター周辺 大気中のダイオキシン類濃度

(単位:pg-TEQ/m³)

| 測定年月日 | 清掃センター | 小沢公民館 | きじ公園 | 富士見台公園 |
|--------------|--------|--------|--------|--------|
| 令和元年度(年間平均値) | 0.0096 | 0.0082 | 0.0081 | 0.0061 |

(注1)きじ公園のみ 令和元年11月12日～7日間

環境基準: 0.6 pg-TEQ/m³(年間平均値)

最終処分場の構造

- 最終処分場の構造を以下に示します。

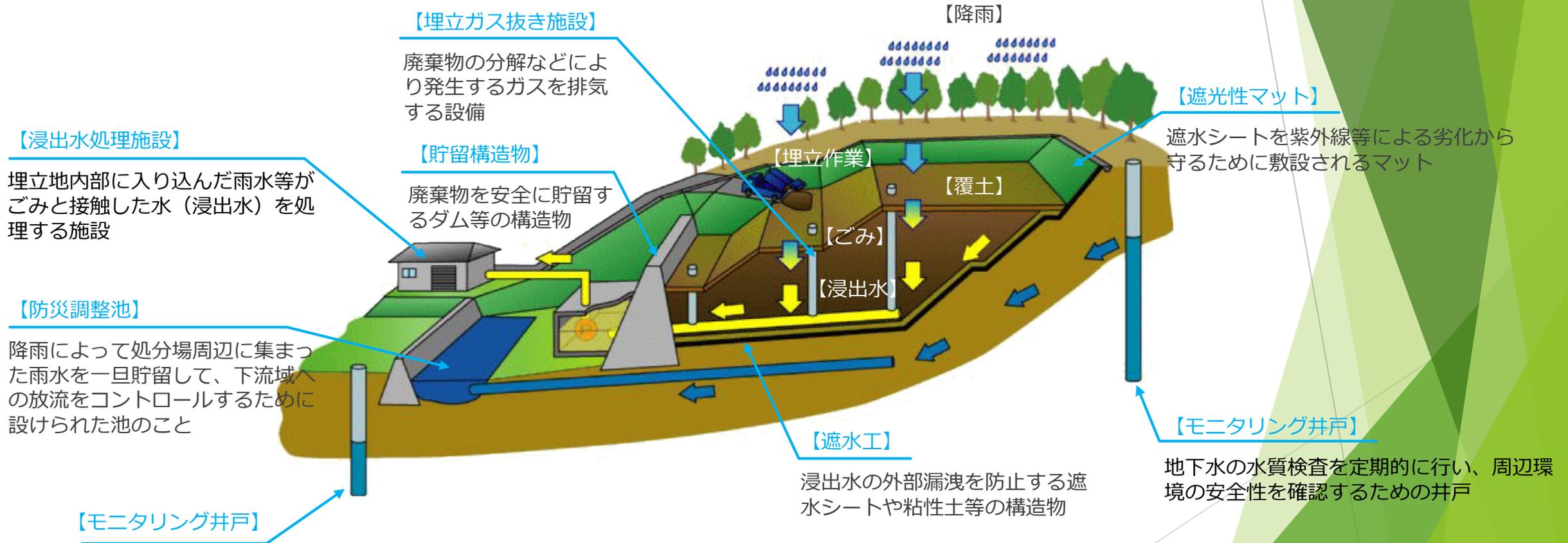


図 一般廃棄物最終処分場の概念図

候補地選定の基本方針

第4次三島市総合計画
(後期基本計画)

(平成28年3月策定)

総合計画で示される基本構想は、市が進めるまちづくりの哲学
→その基本構想で示される「将来都市像」

<将来都市像>

せせらぎと緑と元気あふれる
協働のまち・三島
～環境と食を大切に～

▶ **せせらぎと緑**

→三島市の魅力であり象徴である湧水のせせらぎと豊かな緑などの恵まれた自然が生かされたまちを目指すという意味が込められている。

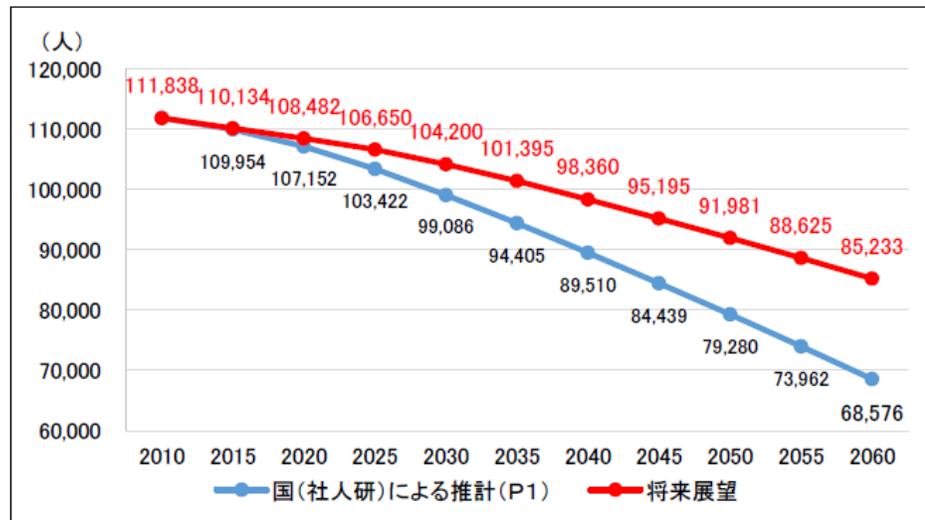
→**次期最終処分場整備でも、**

より環境負荷（特に水環境）の小さい施設を目指す。

候補地選定の基本方針

三島市の人口動態

住むなら三島・総合戦略における人口の将来展望



資料:住むなら三島・総合戦略～まち・ひと・しごと創生～

▶ 人口の将来的な減少

- 三島市においても将来的な人口減少は避けられない。
- 将来的な人口の減少に伴う
 税収の落ち込みにより、
 市の各種サービスが財政を圧迫。
- 3Rの推進等によりごみの排出量は
 減少傾向にあるが、短期間にごみの排出を
 “ゼロ”にすることは出来ないので、
 最終処分場は生活環境保全上、必要な施設。

→より効率的（経済的）な
 施設整備が必要。

候補地選定の基本方針

施設の長寿命化

三島市環境基本条例の基本理念

健全で恵み豊かな環境を享受し、
良好な環境を将来の世代に継承する

人と自然との共生を確保する

環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会を作る

地球環境の保全を積極的に推進する

▶ 施設の長期的な利用

→最終処分場の整備は必要であるが、一度改変すると現況復旧するのに非常に長い期間が必要。

→一方で、最終処分場の選定には長い時間と多大な労力がかかる。

→選定する候補地では、極力自然の改変を抑えるとともに、埋立容量などを考慮して長期間の利用を視野に入れる。

→より長期間利用できる候補地の選定

候補地選定の基本方針

▶ これまでの整理の結果、

- ① せせらぎを大切にすする三島市の特徴から、
水環境への負荷を最小限に抑える候補地
- ② 人口減少社会の中、より**効率的、経済的な候補地**
- ③ 自然環境改変の抑制及び処分場用地確保の困難さから、
長期間利用可能な候補地

を候補地選定の基本方針とする。

候補地の比較方法

<考え方の整理>

- ▶ これまで候補地を10か所から2か所に絞ってきていることから、一定のスクリーニング（法令上困難、地形的に容量確保できないなどの絞り込み）は終了している段階。
- ▶ 2か所は、法律的、物理的にはどちらでも建設することが可能。
- ▶ 2か所から1か所に絞るということから、基本方針及び比較項目に則って優先順位をつけることとする。
- ▶ 基本的な比較項目は、設計要領※の項目に準じて右記の通り設定する。

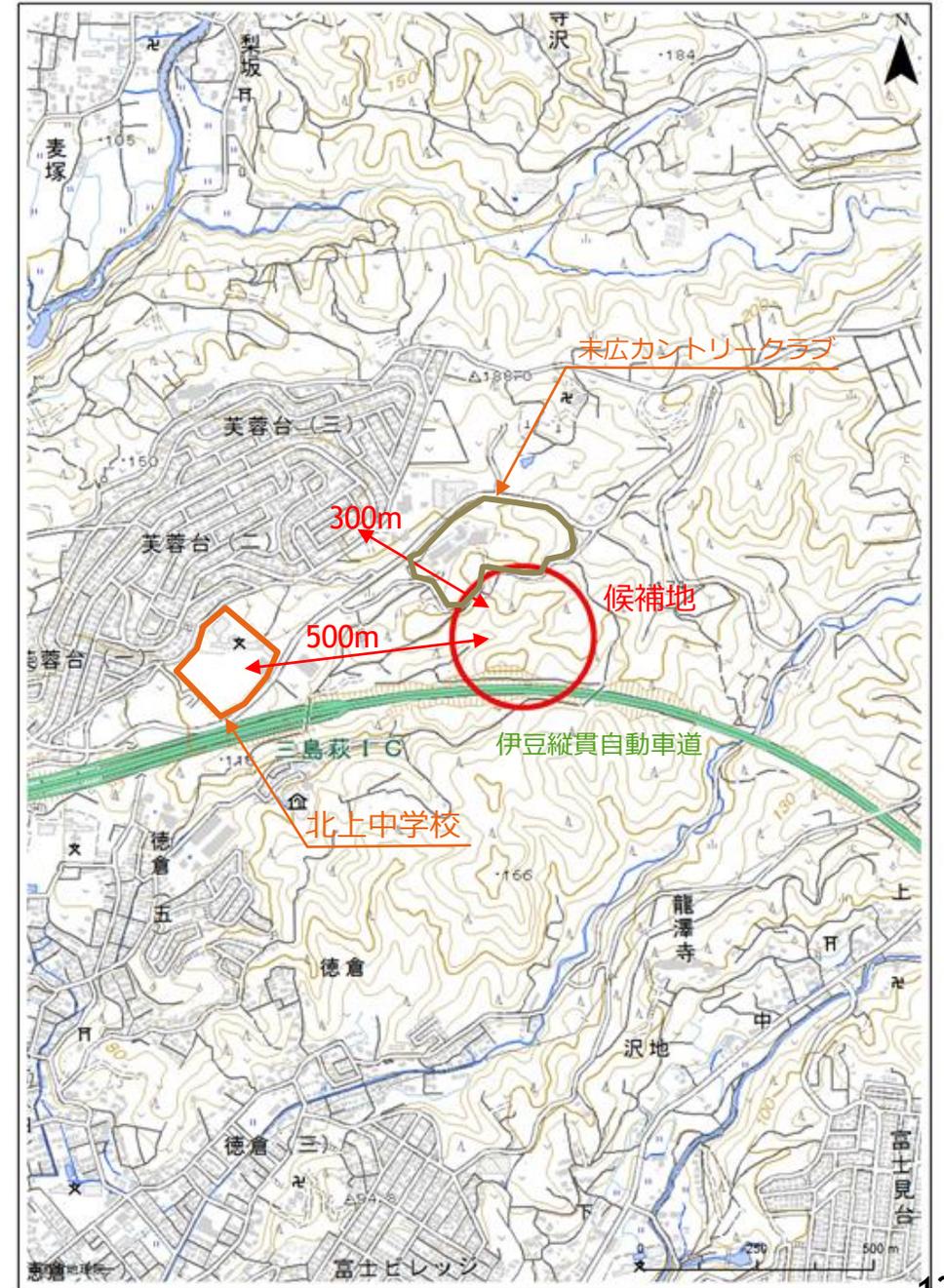
※「廃棄物最終処分場整備の計画・設計・管理容量 2010改定版」：(社)全国都市清掃会議が発行する最終処分場整備に関する設計要領。法律で定められた構造基準などを網羅し、全国の最終処分場は基本的にこの要領に則って整備されている。

| 評価項目 | | 評価基準 | |
|------|-----------------|--------------------------------|---|
| 大項目 | 小項目 | | |
| 立地特性 | 立地条件 | 埋立効率 | 埋立効率(埋立容量m ³ /埋立面積m ²)が大きいほど効率的(◎:10以上、○:5~10、△:5以下) |
| | | 埋立容量 | より多くの埋立量を確保できるか |
| | | 覆土用土の入手 | 候補地で覆土を入手することが可能であれば調達する |
| | | 搬入道路 | 公道から最終処分場埋立地面までの搬入道路の設置が容易か(勾配、線形) (◎:5%以下、○:5~10%、△:10%以上) |
| | 跡地利用計画(平坦地/埋立地) | 埋立地の跡地を有効利用しやすいか(平坦な地形が多ければ優位) | |
| 環境特性 | 自然条件 | 地質状況 | 候補地周辺及び候補地内の活断層の有無や、崩積土や旧崩壊地形があるか。湧水や表流水の有無。 |
| | | 動植物 | 候補地周辺及び候補地内に貴重な動植物の生息が確認されているか。 |
| | 社会条件 | 土地利用 | 候補地に占める植林地あるいは耕作地の割合。 |
| | | 交通量の変化 | 埋立ごみの搬入に伴う交通量の変化があるか。 |
| | | 文化財 | 候補地周辺及び候補地内に指定文化財があるか。 |
| | | 住居 | 候補地周辺の住居の有無。 |
| | 環境条件 | 浸出水処理水の放流 | 浸出水処理水の放流先 |
| 経済性 | 経済条件 | 概算建設費 | 概算建設費 |
| | | 処分場の運営管理 | 処分場の運営管理にかかる手間 |
| | | 概算維持管理費 | 処分場の維持管理にかかる費用 |

候補地の地理的側面①

(1) 徳倉地区

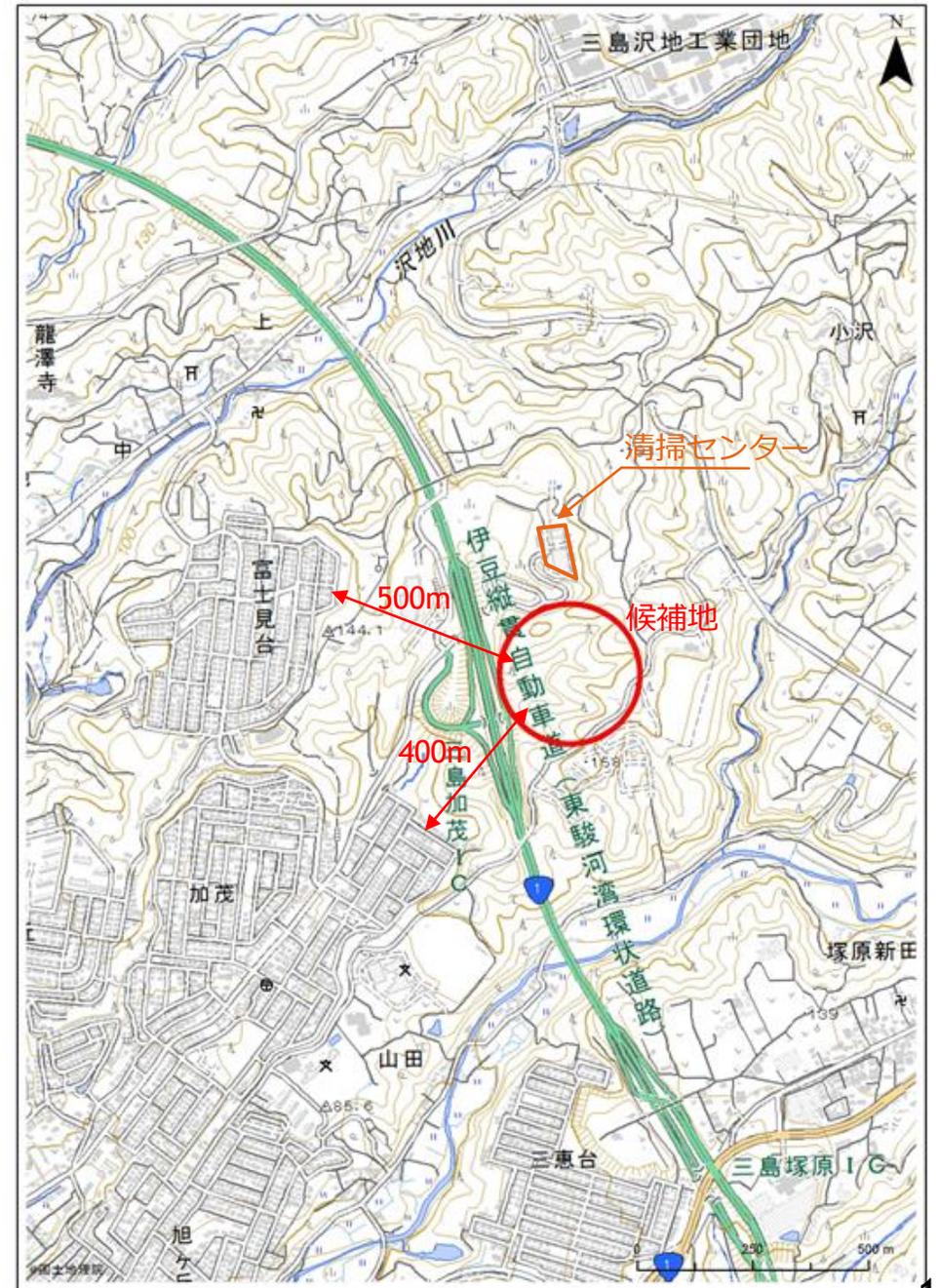
| 項目 | 内容 |
|---------|---|
| 土地利用状況 | 徳倉地区末広カントリークラブに隣接する谷部。市街化調整区域であり、現況は森林で覆われている。 |
| 水系 | (一級)狩野川支流徳倉宮川流域に所在しているが、候補地内あるいは候補地に近接した河川はない。 浸出水の処理水は、近傍に下水道管が整備されていないことから、 公共水域への放流 となる。 防災調整池からの排水先を確保する必要がある。 |
| 法規制 | 森林法（民有林） 及び 文化財保護法（中林山D遺跡他） の適用を受ける。 |
| 道路網との関係 | 候補地南側に伊豆縦貫自動車道が通っており、計画地へのアクセスは、 市道徳倉末広山線から接続する現況道路からのアクセス となる。 |
| 周辺施設 | 候補地の北側にゴルフ場、東側に山林、南側に伊豆縦貫自動車道が隣接している。 候補地から市道を挟んだ西側500m程の位置に、三島市立北上中学校がある。 候補地に最も隣接した集落は、候補地北西300m程に位置する芙蓉台の住宅地となる。 |
| 地形特徴 | 高低差のある谷部を埋立。 高低差は約30m程度（標高130～160m）。 |



候補地の地理的側面②

(2) 賀茂之洞地区

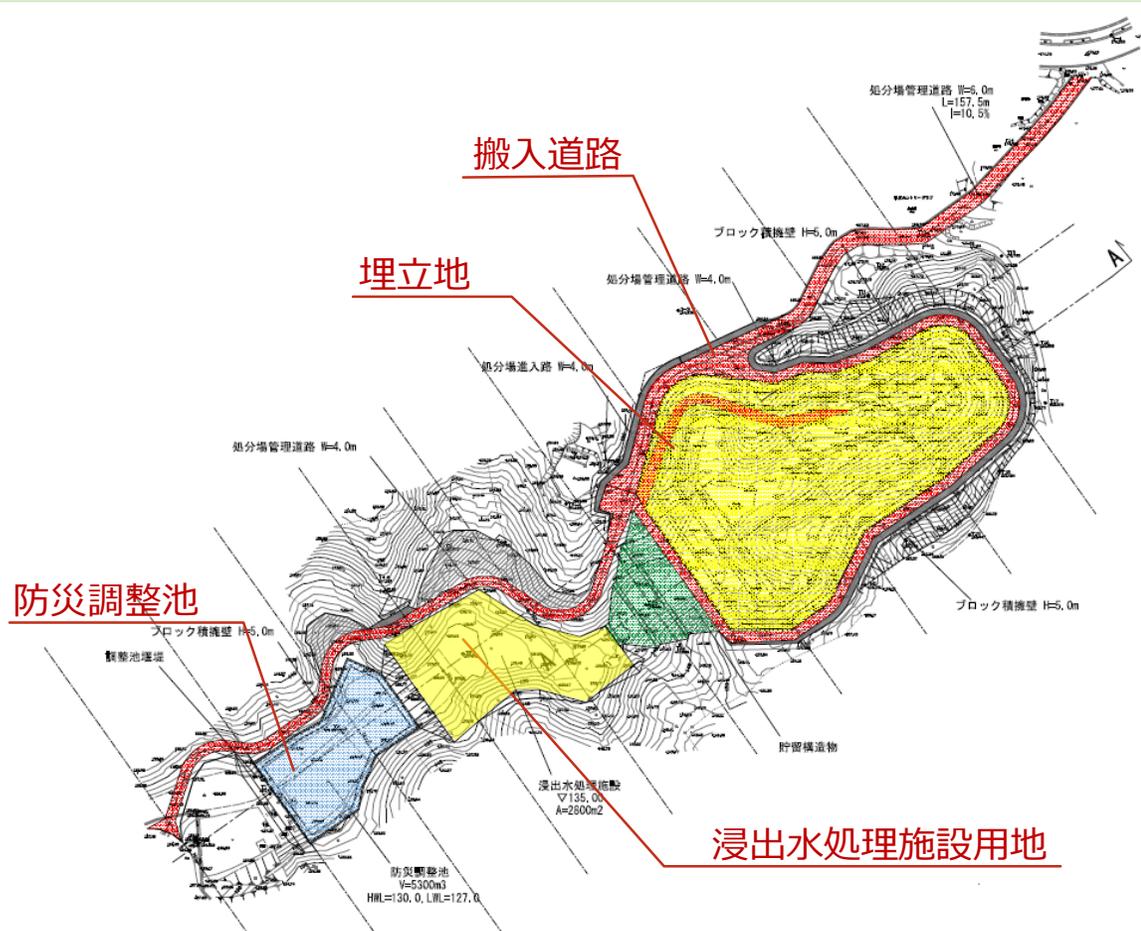
| 項目 | 内容 |
|---------|---|
| 土地利用状況 | 三島市清掃センターに隣接する谷部。市街化調整区域であり、現況は森林で覆われている。 |
| 水系 | (普通)加茂川流域に候補地が存在しているが、候補地内あるいは候補地に近接した河川はない。 浸出水の処理水は既存の浸出水処理施設を活用し、 下水道への放流 となる。 防災調整池からの排水先は既存の排水溝へ放流する。 |
| 法規制 | 森林法（民有林） 及び 文化財保護法（五百地遺跡他） の適用を受ける。 |
| 道路網との関係 | 候補地西側に伊豆縦貫自動車道が通っており、計画地へのアクセスは 三島市清掃センター場内からのアクセス となる。 |
| 周辺施設 | 候補地の北側に三島市清掃センター、東側にゴルフ練習場、南側に山林、西側に伊豆縦貫自動車道が隣接している。 候補地に最も隣接した集落は、候補地西側400～500m程に位置する富士見台及び加茂の住宅地となる。 |
| 地形特徴 | 2つに分かれた谷部を埋立。 高低差は約40m（標高110～150m）。 |



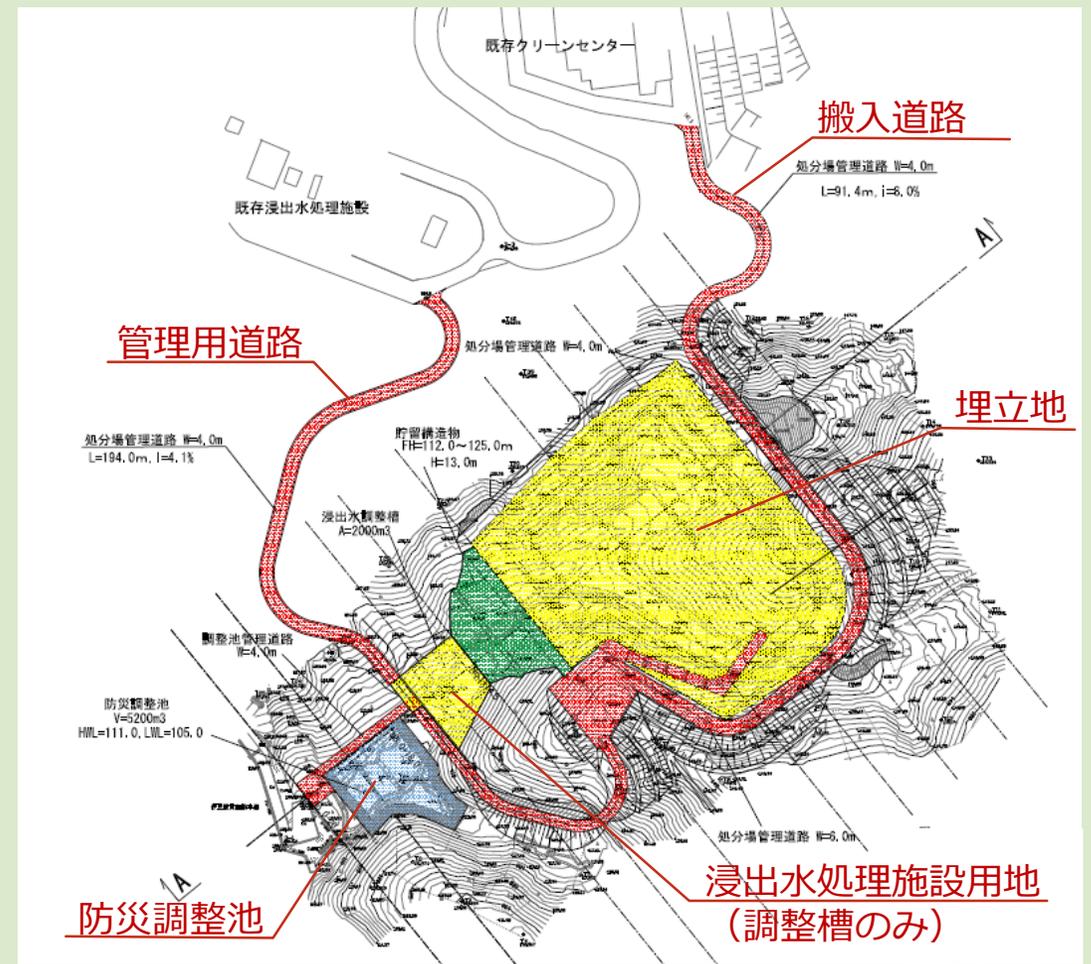
候補地の経済的側面①

▶ これまでの条件より、各候補地における最終処分場の配置案を作成。

徳倉地区



賀茂之洞地区



候補地の経済的側面②

▶ 建設工事費（本体土木工事＋浸出水処理施設工事＋事業用地費）

| 項目 | 詳細 | 徳倉地区 | 賀茂之洞地区 |
|---------------------------------------|--|-------------|-------------|
| 本体土木工事 （埋立容量75,000m ³ ） | 埋立地造成 管理用道路 遮水工など | 878,000千円 | 981,000千円 |
| 浸出水処理施設 （処理能力：70m ³ /日） | 徳倉地区： →新設 賀茂之洞地区： →既存設備改良 | 1,050,000千円 | 735,000千円 |
| 事業用地費 | 徳倉地区：36,000m ² 賀茂之洞地区： 45,000m ² | 27,000千円 | 33,750千円 |
| 合計 | | 1,955,000千円 | 1,749,750千円 |

候補地の経済的側面③

▶ **維持管理費** (埋立15年間+埋立終了後20年間：合計35年間)

| 項目 | 詳細 | 徳倉地区 | 賀茂之洞地区 |
|------------|---|------------------------------|-------------|
| (1)運営管理費 | 委託費、修繕費、臨時修繕費、薬品費、消耗品、大規模改修 | 1,741,900千円 | 1,741,900千円 |
| (2)下水道放流 | 徳倉地区： →なし（公共水域放流） 賀茂之洞地区： →公共下水道 | 7,000千円 ※公共水域までの 排水管新設 | 17,714千円 |
| (3)モニタリング費 | 浸出水、地下水等 | 70,000千円 | 70,000千円 |
| 合計 | | 1,818,900千円 | 1,829,614千円 |

候補地の経済的側面④

▶ ライフサイクルコスト（建設工事費＋維持管理費：合計35年間）

| 項目 | 詳細 | 徳倉地区 | 賀茂之洞地区 |
|--------------------|-------------------------|-------------|-------------|
| (1)建設工事費 | 本体土木工事 | 878,000千円 | 981,000千円 |
| | 浸出水処理施設工事 | 1,050,000千円 | 735,000千円 |
| | 事業用地費 | 27,000千円 | 33,750千円 |
| (2)維持管理費 (35年間) | 運営管理費、下水道放流、 モニタリング費 | 1,818,900千円 | 1,829,614千円 |
| 合計 | | 3,773,900千円 | 3,579,364千円 |

候補地の比較結果①

【凡例】 ◎：適正度が高い、○：適正度が中程度、△：適正度が低い

▶ 黄色の網掛け：基本方針で挙げた重点項目

| 評価項目 | | 評価基準 | 評価結果 | |
|----------|------|-----------------|--|---|
| 大項目 | 小項目 | | 徳倉地区 | 賀茂之洞地区 |
| 立地特性 | 立地条件 | 埋立効率 | ○ 埋立効率(埋立容量m ³ /埋立面積m ²)が大きいほど効率的(◎：10以上、○：5~10、△：5以下) 75,900m ³ /9,630m ² =7.9 | ○ 75,700m ³ /9,240m ² =8.2 |
| | | 埋立容量 | ○ より多くの埋立量を確保できるか 15年間分の容量確保は可能。 一方でこれ以上の容量確保は困難。 | ○ 15年間分の容量確保は可能。 一方でこれ以上の容量確保は困難。 |
| | | 覆土用土の入手 | ○ 候補地で覆土を入手することが可能であれば調達する 残土が発生することから、仮置きスペースが確保できれば全量調達可能。 | ○ 残土が発生することから、仮置きスペースが確保できれば全量調達可能。 |
| | | 搬入道路 | △ 公道から最終処分場埋立地面までの搬入道路の設置が容易か(勾配、線形) (◎：5%以下、○：5~10%、△：10%以上) 搬入道路の勾配が10.5%以上となり、搬入時には十分留意することが必要。 | ○ 搬入道路の勾配が8.0%となり、やや勾配がきついことから、搬入時に留意が必要。 |
| | | 跡地利用計画(平坦地/埋立地) | ◎ 埋立地の跡地を有効利用しやすいか(平坦な地形が多ければ優位) ほぼ平坦な跡地となる。 | ◎ ほぼ平坦な跡地となる。 |
| 環境特性 | 自然条件 | 地質状況 | ○ 候補地周辺及び候補地内の活断層の有無や、崩積土や旧崩壊地形があるか。湧水や表流水の有無。 活断層は10km以上離れている。沢水流量は2~3L/m程度から徐々に伏流し谷下流部ではゼロになった。湧水は6~7L/m程度。沢で伏流し流路自体がなくなるため、排水の流末処理先の確保が必要。 | ○ 活断層は10km以上離れている。沢水流量は7~8L/m、湧水は多くて3,4L/m程度。斜面に崩壊の痕跡が多いため、地山表面が不安定な可能性がある。 |
| | | 動植物 | ○ 候補地周辺及び候補地内に貴重な動植物の生息が確認されているか。 重要種の確認記録はないが、沢地を含む樹林地であり、重要種が生息する可能性もある。 | ○ 重要種の確認記録はないが、沢地を含む樹林地であり、重要種が生息する可能性もある。 |
| | 社会条件 | 土地利用 | △ 候補地に占める植林地あるいは耕作地の割合。 候補地のほぼすべてが森林で覆われている。 | △ 候補地のほぼすべてが森林で覆われている。 |
| | | 交通量の変化 | ○ 埋立ごみの搬入に伴う交通量の変化があるか。 清掃センターからの焼却灰を搬入するため、周辺交通量が増加。 | ◎ 隣接する清掃センターから直接搬入されるため、区域外への車両の搬出は無し。 |
| | | 文化財 | △ 候補地周辺及び候補地内に指定文化財があるか。 候補地周辺に文化財が存在。開発にあたっては事前に調整が必要。 | △ 候補地周辺に文化財が存在。開発にあたっては事前に調整が必要。 |
| | | 住居 | ○ 候補地周辺の住居の有無。 候補地の北西300m程に芙蓉台住宅地がある。ゴルフ場が候補地に隣接している。 | ○ 候補地の西側500m程に富士見台住宅地、南西400m程に加茂住宅地がある。清掃センターに隣接している。 |
| | 条環境 | 浸出水処理水の放流 | ○ 浸出水処理水の放流先 近隣に下水道が整備されていないことから、公共水域へ放流。 | ◎ 既存の浸出水処理施設を活用し、下水道放流を行う。 |
| | 経済性 | 経済条件 | 概算建設費 | ○ 概算建設費 約19.6億円(25,800円/m ³) |
| 処分場の運営管理 | | | ○ 処分場の運営管理にかかる手間 既存の処分場から離れるため、新たに管理事務所の整備が必要。 | ◎ 既存処分場に隣接しているため、管理事務所を共同で利用可能。 |
| 概算維持管理費 | | | ○ 処分場の維持管理にかかる費用 約18.2億円(埋立15年、埋立終了後20年) | ○ 約18.3億円(埋立15年、埋立終了後20年) |

候補地の比較結果②

▶ 基本方針に対する評価

| | 徳倉地区 | 賀茂之洞地区 |
|------------------|--|---|
| ①水環境への負荷を最小限に抑える | ○：浸出水処理水を公共水域へ放流するため、周辺環境に変化を与える恐れがある。 | ◎：既存の浸出水処理施設を使って水処理が行えることから、周辺環境の変化はない。 |
| ②効率的、経済的な施設案 | ○：ライフサイクルコストは、賀茂之洞地区に比べて高価となる。 | ◎：ライフサイクルコストは、徳倉地区に比べて安価となる。 |
| ③長期間利用可能な候補地 | ○：15年間分の容量確保は可能。一方でこれ以上の容量確保は困難。 | ○：15年間分の容量確保は可能。一方でこれ以上の容量確保は困難。 |

候補地の比較結果③

▶ 総合評価

| | 徳倉地区 | 賀茂之洞地区 |
|------|--|--|
| 総合評価 | <p>【立地特性】</p> <ul style="list-style-type: none">✓ 搬入道路の勾配が急勾配となり、搬入に支障をきたす恐れがある。✓ 候補地においてこれ以上の容量確保は困難。 <p>【環境特性】</p> <ul style="list-style-type: none">✓ 浸出水処理水を公共水域へ放流するため、周辺環境に変化を与える恐れがある。 <p>【経済性】</p> <ul style="list-style-type: none">✓ ライフサイクルコストは賀茂之洞地区に比べて高価となる。 | <p>【立地特性】</p> <ul style="list-style-type: none">✓ 立地特性として、搬入は清掃センターから管理用道路を通じて直接行われる。✓ 候補地においてこれ以上の容量確保は困難。 <p>【環境特性】</p> <ul style="list-style-type: none">✓ 搬入車両が公道を走らないため一般車両に影響がない。また、既存の浸出水処理施設を使って水処理が行えることから、周辺環境の変化はない。 <p>【経済性】</p> <ul style="list-style-type: none">✓ ライフサイクルコストは徳倉地区に比べて安価となる。 |

今後のスケジュールについて

▶ **概略工程表** これまでの検討結果に基づき、最終処分場の工事完了までの概略工程を以下に示す。

| 項目/年度 | 平成30年度 | 令和1年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 |
|-----------------------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| (1) 一般廃棄物(ごみ)処理基本計画 | ■ | | | | | | | | | |
| (2) 循環型社会形成推進地域計画 | ■ | | | | | | | | | |
| (3) 最終処分場候補地選定委員会 | ■ | ■ | | | | | | | | |
| (4) 地権者・住民説明会 | | ■ | | | | | | | | |
| (5) 用地測量(計画地測量) | | | ■ | | | | | | | |
| (6) 地質調査(ボーリング等) | | | ■ | | ■ | | | | | |
| (7) 最終処分場基本計画策定(基本設計) | | | ■ | ■ | | | | | | |
| (8) 生活環境影響調査 | | | ■ | ■ | | | | | | |
| (9) 物件補償調査委託 | | | | | ■ | ■ | ■ | | | |
| (10) 都市計画決定・隣地開発等申請 | | | | ■ | ■ | ■ | | | | |
| (11) 用地測量調査(用地買収関係) | | | | | ■ | ■ | | | | |
| (12) 不動産鑑定 | | | | | ■ | ■ | | | | |
| (13) 用地買収 | | | | | ■ | ■ | ■ | | | |
| (14) 最終処分場実施設計 | | | | | | ■ | ■ | | | |
| (15) 最終処分場建設工事 | | | | | | | | ■ | ■ | ■ |

施
設
計
画
等

三島市 環境市民部 廃棄物対策課 ごみ処理施設整備推進室

〒411-0000 三島市字賀茂之洞4703番地の94

TEL055-971-8993 FAX055-971-8994

E-mail haitai@city.mishima.shizuoka.jp